

C-84 運針に関する研究 (第3報)

愛知女短大 阪本弘子

名古屋市立女短大 佐野恂子

岐阜女短大 ○山田令子

目的 和裁技術に大切な運針に関して、上達をはかるため、その解明を行っている。
今回も 第2報に引き続き、被検者(学生)の運針動作分析を行い、検討を加えたので報告する。

方法 被検者、動作記述、測定、姿勢、服装、運針用布、縫糸、縫針等は前回と同様である。

被検者数を増し、動作分析について比較検討を行った。

結果

1. 各周期のコマ数については、「始め」の項目に変動がみられる。
2. 周期の所要時間は、「始め」の項目が多くなっている。
3. 動作線長について、「始め」の項目は、右手より左手が大きな値を示しているが、「終り」の項目では、左右同じ傾向を示している。
4. 振幅のうちの極大については、動作線長と同様の傾向である。

極小について、「始め」の項目は、左手の方が大であるが、「途中」「終り」の項目では、左手の動きが小である。